http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

第２０７号
発行日　平成２０年１０月２５日（土）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子下久保山町１－１４－３
ＴＥＬ　（０４２）６９１－１１０５
発行人・勝山　恭男
編集者・磯部　信広

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

碁楽連世代の出番

碁楽連理事　　杉渕　清

名人戦が行われている。史上初の十代の挑戦者ということで話題になっている。井山裕太君である。くんづけでなれなれしいが、あまりに若く、つい裕太君と呼ばせて欲しい雰囲気をもっているのである。名人戦のことを語る資格は全くないし、書きたいことは別のことである。

裕太君に碁の手ほどきしたのは、おじいさんだったとなにかに紹介されていた。これを聞いてなんともほのぼのとした情景がうかんできた。おじいさんが愛情を込めた手つきで可愛い孫に碁を教えている。大阪の知人から聞いたところによると、碁の大会におじいさんが幼い裕太君を連れてよく参加していたそうである。名人戦の挑戦者になるまで強くなったのは、おじいさんの手ほどきと本人の才能がうまくかみ合った結果なのでしょう。それはそうなのであろうが、それでは身も蓋もない。もう少し屁理屈をこねてみたい。

スポーツや奥の深い芸に関して幼児時代からの教育の重要性が言われる。しかし碁の場合親父が子供に碁を仕込もうとしてもなかなかうまくゆかず、頓挫することが多いようである。親子の間の濃密な関係がかえって棋力向上に邪魔になるのかも知れない。ある雑誌にアマチュアの強豪である俳優の森山周一郎さんの経験が出ていた。森山さんのお父さんは名古屋でも一番強いほどの打ち手だったようですが、子息の森山さんには碁を教えてくれなかった。面倒くさいと思ったか、バカバカしいと思ったのでしょうとのこと。おじいさんに教わったそうである。

碁の手ほどきにはおじいさんと孫の間の距離がほどよいところかもしれない。そうなると逸材を育む環境は少なくとも三世代同居がふさわしいのだろうか。現代の核家族の時代にこれは望むべくもない。ないものねだりをしても仕方がない。しかし擬似的な環境は作れるのではないか。よくある幼児のスイミングスクールの囲碁版である。手ほどき役は碁楽連世代の我々である。孫と遊ぶという位の気分でよいと思うのだが。そんなものはとっくにあるよ、といわれるかもしれない。それならば期待して待つことにしよう。

第 18 回活きいき囲碁大会の結果

長房大会　10 月 5 日　長房ふれあい館

参加者 53 名（長房 24、北野 12、台町 6、恩方 5、浅川 2、大和田 2、元八王子 1、川口 1）

Ａクラス 18 名（7 段～4 段）優勝　塩津　浩 5 段/台町→6 段に昇格　準優勝　山本金昭 4 段/北野　第 3 位　安西　実 4 段/長房

Ｂクラス 20 名(4 段～2 段）優勝　山崎　稔 3 段/恩方→4 段に昇格　準優勝　池田清吾 3 段/恩方　第 3 位　荒井　正 4 段/恩方

Ｃクラス 15 名（初段～7 級）優勝　中岡誠初段/北野→2 段に昇格　準優勝　白田泰夫 4 級/長房　第 3 位　阿部　惺 1 級/恩方

川口やまゆり大会　10 月 19 日　川口市民センター

参加者 48 名（川口 13、恩方 20、北野 6、長房 5、石川 2、浅川 1、由木 1）

Ａクラス 16 名（7 段～4 段）優勝　松崎邦夫 5 段/川口→6 段に昇格　準優勝 若穂囲廣志 7 段/川口　第 3 位　笠原純吉 5 段/恩方

Ｂクラス 16 名（4 段～2 段）優勝　橋本岩雄 3 段/川口→4 段に昇格　準優勝 佐藤裕久 4 段/恩方　第 3 位　山本乙文 3 段/川口

Ｃクラス 16 名（2 段～3 級）優勝　笹本梅吉 2 段/長房→3 段に昇格　準優勝 辻　日出男 2 段/川口　第 3 位　小俣准一初段/川口

今年度最後の活きいき地区囲碁大会となった川口大会では、新しい試みとしてパソコンを使って組合せを編成し各クラス全員が 5 回対戦しスイス方式で優勝者を決定した。碁楽連方式と違って全員が最終戦まで参加し、夕方近くまで熱戦を展開した。川口同好会の運営委員廣島松治さんがパソコンを操作し、取り組み編成に大忙しだった。

写真は大会風景とパソコン操作の様子

仲間達と水曜会　　同好会だより

石川囲碁同好会　大山芳雄

碁の好きな愛好者は世間には大勢いますが、私もその一人で多くある趣味の中でも一番気楽に取り組めるため、大切な余暇の一部を碁に費やすようになりました。

碁歴は古いのですが、実力がともなわず数年前まで置き碁ばかりでしたので、碁に対する愛情というものがほとんどありませんでした。しかし最近では、数を重ねるごとに碁の楽しみと深みを知り、多くの時間を当てるようになりました。また、研修会にも参加し研鑽の日々を送っています。石川囲碁同好会の例会日は、約 3 回/月ですがこれでは少々もの足りず碁を打てる機会をつくるからと仲間に持ちかけたところ、幸い 10 数人ほどの賛同者がいました。そこで戸野さんと二人で世話人となり、いろいろな事について検討することにしました。場所については、市民センターの部屋を借りる。借室料等については、1 部屋 800 円必要なので 100 円/人参加するたびに負担してもらう。余剰金が出た場合は貯めておき、大会を開いて賞品に当てる。競技方法については、最初、一人ひとりの対局カードを作り碁会所などで使われている点数制を採用する。この方法の詳細はインターネットで知り勝率計算の面倒もなく、その日の勝敗で持点が上下し、カードを見ればいつ誰と対局したかも判るという点で、現在はこれを採用しています。曜日については、毎週水曜日の午後とすることに決まった。そこでしばらく続いて定着したので、この会を『水曜会』と呼ぶようになりました。

月日の経つのは早いもので発足してから、現在まで 3 年以上も続いています。世話役も輪番制とし、市村さん、岡本さん、そして現在は、平松さん、藤井さんにお願いしています。水曜会の大会も過去数回開かれ、その都度 20 名ちかく集まり、石川地区以外の方の参加者も含め、和気あいあいと碁を楽しんでいます。特に難しい規則や規約もなく土曜、日曜は、用事があり水曜日なら時間が許せるという人は、是非遊びに来て頂きたいと思います。この会は誰でも自由に参加できるということを付け加えておきます。

第 24 回　南大沢研修囲碁大会の結果

開催日　予選　9 月 13 日　参加者 14 名（1 級～9 級）

有段者は東浅川研修大会に参加

準決勝・決勝　9 月 27 日

優勝　新井勝雄 3 級→2 級に昇級

準優勝　大野まこと

第 3 位　中森久雄

第 19 回　地区団体対抗囲碁会の結果

平成２０年度第５回　１０月１２日開催

浅川	９勝	木村一男６段	親松幸治５段	横内廣隆４段
		永坂道雄３段	中村益大２段	武発悦子１級
由木	９勝	大場芙美夫７段	岡部隆男６段	杉渕　清５段
		唐木　伸２段	穂積宏易２段	西田　誠初段
川口	１０勝	山下健吾７段	若穂囲廣志７段	山本乙文３段
		長澤勝美２段	長井倭男初段	小俣准一初段
中野	８勝	井上栄次郎７段	磯部信広６段	清水文彦６段
		六本木茂３段	浜中武夫２段	石塚義保１級
北野	１５勝	新保礼次６段	広田桂助５段	山本　林４段
		古屋常男３段	平田弘一２段	柴崎　勝１級
元八王子	９勝	山下則文６段	吉田征也６段	中村幸男５段
		長島　廣４段	山崎　臣２段	藤本淳雄１級
長房	９勝	塚原和利７段	戸谷富雄５段	小沢美智子４段
		川村英二３段	高橋俊之２段	小沢公夫５級
由井	９勝	相馬康三７段	北村雅信６段	二見武夫４段
		小野勝彦２	小関真満段	斉藤隆男２段
恩方	８勝	西山孝二６段	五十棲健一５段	荒井　正４段
		池田清吾３段	長尾昌彬２段	真辺保幸２段
台町	１０勝	三上靖宏７段	吉田信夫６段	渋谷昭男３段
		添田悦男３段	小造義勝３段	下山正夫２段
石川	１４勝	松本健彦６段	金本好正６段	中村順二４段
		田村　強３段	清水明一２段	遠藤　博初段
大和田	４勝	豊田弘伯５段	鈴木浩治４段	岡本昭二４段
		栗原久男２段	細田正光１級	山中　茂２級

注・北野対元八王子戦は１０月５日に行われました

昇格者誕生

今回の対抗戦で３勝し、共に通算８勝１敗で次の方が昇格しました。

池田清吾３段/恩方→４段に昇格　平田弘一２段/北野→３段に昇格

第 19 回　地区団体対抗戦成績表

石川同好会完全優勝

地区名	第 1 回 5 月 18 日	第 2 回 6 月 8 日	第 3 回 7 月 13 日	第 4 回 9 月 14 日	第 5 回 10 月 12 日	勝率	順位	級位者数
浅川	1	0	0	1	0.5	0.50	6	3
恩方	1	1	0.5	0.5	0	0.60	4	0
元八王子	0	0	0	0.5	0	0.10	11	5
中野	0	1	1	0	0	0.40	8	2
大和田	0	0	0	0	0	0.00	12	5
石川	1	1	1	1	1	1.00	1	3
由井	0	1	1	0.5	0.5	0.60	4	1
台町	1	1	1	0	1	0.80	2	2
由木	1	0	1	0	0.5	0.50	6	3
北野	0	0	0	1	1	0.40	8	1
長房	0	0	0.5	0.5	0.5	0.30	10	5
川口	1	1	0	1	1	0.80	2	1

上表のとおり石川地区同好会が完全優勝しました。
追って優勝トロフィー及び賞状を贈呈します。

投稿二題

父　親　に　感　謝　　三上靖宏

群馬県の片田舎で東京電力を定年退職した父親が何を思ったのか、東京の早稲田に家を買い「碁会所」を始めてしまった。その時私は地元の県立高学校１年生だったので、都立高校への編入試験を受けたのですが、私の能力の低さと、地方と東京の学力差を痛切に感じ、何で東京に出てきたのか父親を恨んだりもしました。

地方訛りが抜けず、人と話すのが恥ずかしかったので、近所に友達も作らず、学校に行っても、ほとんど会話をせず、店のお手伝いをしている内にお客さんから「囲碁」を教えて貰い、覚え始めていたので、休み時間は囲碁の定石本を読み手順を暗記していました。帰宅すると店に出て、お茶出しや灰皿の交換をしながらお客さんの対局を眺め雰囲気を楽しんでいました。

店が早稲田大学に近かったため、お客さんの中に早稲田大学の学生さんが来るように

なり、彼達とどっちが沢山の定石を暗記出来るかを競い、学校の行き帰り、休み時間に父親の書棚から持ち出した「定石本」を読み漁り得意になって手順を披露し、自慢をし合い「碁経衆妙」（ごきょうしゅうみょう：準名人１１世　林　元美著）「官子譜」（かんずふ：第十世　井上因碩著）等で詰碁の勉強をしたのが棋力の向上に役立ったと思っています。

高等学校を卒業する頃には父親に代わってお客さんを相手に対局できるまでの棋力になり、囲碁を打つのが楽しくなった時でした。昭和３０年頃の碁打ちは、はめ手や、はめ手まがいを駆使し、力碁で相手をねじ伏せる方が沢山いたので、何度も痛い思いを経験し、涙しながらの勉強をさせられました。中には勝ちにこだわり、相手がトイレに行った隙に盤面の石を自分有利に移動する、ポケットに碁石を忍ばせておき、終局間際に碁筒の蓋にそっと入れて勝ってしまうなど常識では考えられない行為も体験し、勝負事の厳しさも味わいました。

我が家の前にある道路下に地下鉄（東西線）が通ることになり、区画整理が始まるのと、父親の体調が悪くなる等々で「碁会所」を閉鎖して郊外に移り住んだので、囲碁からは遠ざかってしまったのですが、就職の時、趣味を「囲碁・棋力二段格」と履歴書に書いたのがきっかけで、「囲碁部」に誘われ、大学の囲碁部で活躍された方々に混じり、団体戦のメンバーに加えて貰い、各種の大会に出場しました。

プロ棋士に教えてもらったのは、労働組合関係で「勤労者囲碁連盟」を発足させるお手伝いをした時に、故石毛嘉久夫（八段）と、八王子市に転勤になり、西八王子駅近くのマンションの一室にあった碁会所に藤沢一就（八段）がときどきお見えになったので、その都度ご教授して頂き、本手を打つことの大切さを諭されました。

また、定年退職後「日本囲碁連盟高田馬場校」の淡路修三（九段）教室に入り、ご指導を頂き平成九年に日本棋院の六段位を頂くことが出来、囲碁の勉強にひと区切りが付いた思いがしました。

振り返ってみれば、父親が碁会所を営まなければ囲碁には興味を持たなかったと思うので、今では非常に感謝しています。７０歳を過ぎ、体力･気力も衰え、あと何年囲碁を楽しめるかは分かりませんが、碁楽連の皆様方にお世話になりながら楽しく打たせて頂いていますので有難い事と思っています。これからもよろしくお付き合いの程をお願い申し上げます。

楽 し い 囲 碁　　諏訪　信夫

私が囲碁を始めたのは、２３年前の事と記憶しております。もともと囲碁の世界とは多少縁がありましたのですが、中々始めるチャンスがありませんでした。たまたま、石川市民センター祭りのチラシの中に、囲碁の事がでておりました。昔々５０年以上も前にやったのですから、何級と自己申告すると言っても見当が付きませんでした。

申し込みをする時、隣にいた方が、「私は昔、三級で打っていたのですが永年やっていないからどうしようかと考えているのです」と言わ

れました。「実は私も昔、富士森にあった碁会所では三級で打っていたのですよ。しかし５０年以上の昔の事ですから自信がありません。どうしようかと迷っているんです」。するとその方が「二人とも同じようだから５級で申し込みしましょうか」、「ではそうしましょう」と５級で申し込みました。

何十年ぶりかの碁盤に向かい、ものすごく緊張したと同時に何か開放された楽しさをしみじみと味わいました。それが又、何の間違いか確か準優勝だったと思います。賞品を戴き、これ又何十年ぶりかの快感を味わいました。それで有頂天になり前後も考えずにすぐに入会の手続きをしてしまいました。しかし、後で考えてみると日曜日は、月に二回用事があることを思い出しました。しかしもうどうしようもありません。まあいいや月に二回だけでも楽しめれば十分と自分なりに納得して始めました。

ところが又其れも浅はかで、長期にわたるリーグ戦には空白だらけであり、会員のお名前も知らないから如何ともしようもありません。しかし、碁を打っているときの開放感は、この何十年間味わったことのない気持ちでした。同じ位の級のＦ氏と打っているときの楽しさは、また格別でした。周りの先輩方たちからは「だめだよ、少しは考えなくては」と忠告されても、何時の間にか二人でホイホイと打っている。先輩の方たちは、確かに良く考えていられます。

最近、石を置く前に十を数えて打とうと思っています。囲碁には背後には約束事、定石とかも何となく思い出してきます。「四隅取られて碁を打つな」「天元にしちょう無し」「一跳ね四目」とか「鶴の巣籠もり」等と思い出してきました。また、「待った」等は許されるものではありません。ところが私は、どうしてもホイホイホイと打ってしまい「しまった」とつい打った石に手をだしてしまいます。

ところが、最近いろいろと昔のことを思い出してきて、「石を置いたら手を放さなくても駄目」だとか「大石は追うな」「捨石」「石を取るのが好き」「無理かと思ったら思い切れ」等を思い出してきました。囲碁は、錯覚と盲点の競技といっても過言ではないでしょうか。なぜならば、対局の考えのほんの一部が表れるだけで、実際に頭の中で考えているすべてのことを総括したなら、その数は着手に表れる数万倍以上になると思われます。時間を置いて頭の中に浮かび、着手に表す意志決定をするまで殆どの場合試行錯誤を繰り返します。たった一手を打つだけで数百手を考える人とポンポンポンと打つ人の違いが、プロとアマの違いであり、有段者と級の人との違いではないでしょうか。人間頭の中で考えることは、かなり頼りないものです。特に、碁の思考は単一でなく、二度と同じ型は打てないとも言われております。

また、級の者は目の前の今打っているそこだけしか見えないのですから、「視覚」とか「心理」等以前のことを初心者は考えるべきと最近理解できるようになりました。しかし、有段者の方とか先輩方には誠に申し訳ありませんが、私の場合にはどうしてもつい、勿論、勝ち負けにはこだわりますが、ホイホイホイと打ってしまいます。段々年をとってきましたから先輩方の教えを心に留めて、折角始めた囲碁を最後の趣味と思い真面目に楽しんでいきたいと思います。最後に、石川囲碁同好会の皆様に感謝して拙い文を終わりたいと思います。

第 2 回記念事業実行委員会記録

日　時　10 月 22 日　９：００～１４：４５

場　所　東浅川保健福祉センター

参加者　勝山、真辺、三上、望月、三浦、端山、渡辺、磯部、石田、渋谷、杉渕、斉藤

議題　１、記念誌関係

２、記念大会　(式典、大会、祝賀会)

参加者　10 月 15 日現在　274 名　（7 段 20、6 段 36、5 段 21、4 段 52、3 段 37、2 段 43、初段 24、1 級～7 級 41）

組合わせ　1 組 7 段 20、2 組 6 段 30、3 組 6 段と 5 段 27、4 組 4 段 30、5 組 4 段と 3 段 29、6 組 3 段 30、7 組 2 段 30、8 組 2 段と初段 27、9 組初段と 1 級 28、10 組 2 級以下 23

対局時間　１回戦 10:45~11:45　2 回戦 12:15~13:15　3 回戦 13:30~14:30　準決勝 14:45~15:45　決勝 15:55~16:55

3、今後会議日程　11 月 12 日 9:00　第 3 回実行委員会　最終決定

11 月 19 日 9:30　大会役員総合打合会(実行委員、競技委員)

11 月 29 日 13:30　第 4 回実行委員会（前日の準備）

申し合わせ事項　記念大会当日は、車での来場は遠慮してもらうこと。

第 5 回碁楽連理事会記録

日　時　9 月 27 日　　場　所　東浅川保健福祉センター

出席者　勝山、磯部、石田、渋谷、杉渕、斉藤　６名

審議事項

１　八王子市民文化祭囲碁大会について

２　20 周記念事業の準備について

編集後記

今年度の地区団体対抗戦、活きいき囲碁大会が終了し、この後市民囲碁大会と碁楽連最大イベントの創立 20 周年記念大会を迎えることになった。自然界では実りの季節を迎え八王子の米どころ高月では稲穂が頭をたれ、近隣では柿がたわわに色づき、菊が優雅な花を咲かせようとしています。既にご案内のように、２０周記念大会は大勢の会員の参加を得て盛大に行われようとしている。実行委員、競技委員が実施に向けて打ち合わせを重ねている。会員皆様方のご理解とご協力をお願いします。　　磯　部